

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年 9月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0773100508		
法人名	医療法人 健山会		
事業所名	船引クリニック グループホームすみれ		
所在地	福島県田村市船引町船引字砂子田1-1, 1-2 (電話) 0247-82-1366		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価確定日	平成19年10月18日

【情報提供票より】 (19年7月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	12,000円(4~6, 9~10月) 18,000円(7~8, 11~3月)
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2		1名	
要介護3	3名	要介護4		3名	
要介護5	1名	要支援2		0名	
年齢	平均 88.8歳	最低	80歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	船引クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1ユニットのこのホームはJR船引駅に近く、船引クリニックが道路向かいの至近距離にあり、随時往診が可能という恵まれた立地環境にある。ホーム開設以前からのクリニックの患者が認知症を発症したのを機に入居したケースが多く、もともと地域密着型の事業所となっている。また、自立歩行可能者は2名いるが、いずれも数メートルが限度であるので、散歩、外出などは全て車椅子利用である。そういう実態の中で法人の協力を得ながら、利用者1名に職員1名が同行し、極力遠出の機会を作り、日常生活にアクセントをつける努力を惜しまずに行っている。さらに、協力医療機関等との連携を図りながら、利用者が終末期を穏やかに過ごせるように支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で改善すべき点となった介護計画に関する部分は、記録様式の変更(センター方式の取り入れ)等をしながらか、少しずつ改善している。しかし、年に1回の外部評価について、昨年の実施はなかった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全体で話し合いながら取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	平成18年4月に運営推進協議会が設置され、回を重ねるごとに、議題や協議事項、委員からの質問なども充実してきている。地区の町内会が高齢化して冠婚葬祭のみの活動になっているため、会議の構成メンバーは町内会長ではなく地区の市会議員に依頼し、地域包括支援センターや利用者家族の協力も得ながら、取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者のほとんどが近隣からの入居で、家族や知人が訪れる頻度は高く、ホームとの意思の疎通が図られている。職員の異動もほとんどないため、利用者や家族からの苦情などは寄せられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域主催の行事は少ないが、近隣の町内会や青年団などの催事やお祭りの情報が、職員や知人から提供され、可能な限り参加して日常生活にメリハリをつけている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来からの理念の見直しは行われておらず、地域密着型サービスとしての表現を加える必要があると思われる。	○	地域密着型のホームとして、具体的な理念の構築を職員全体で話し合い、家族や利用者にも分かりやすい文言で表現してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所で定めた4項目の理念に基づき、日頃のサービスを行っている。理念を書いた紙を名札の裏に入れて持ち歩いており、職員同士が折に触れ確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の高齢化に伴い、町内会の行事はなくなっているが、近隣の町会、青年団、行政などの催事や、お祭りの情報を極力収集して可能な限り参加し、生活にメリハリをつける努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果で要改善となった点について、職員間で検討しながら改善している。今年の自己評価は、全職員で話し合いながら行っている。昨年の評価は実施してないため、今後は毎年の取り組みが望まれる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族、地域包括支援センター、市会議員等に委員を依頼し、運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。回を重ねるごとに具体的な質問や意見などが出されるようになってきている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時は、時間の許す限りゆっくりとホームでの生活を見てもらおうようにしている。毎月の利用料等の請求書を送付する際には、預かっている金銭の出納状況報告や、ホームでの日常的な様子や外出時の写真を載せた「すみれだより」を同封して家族へ送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などが意見や要望を話しやすい雰囲気作りに努め、要望などには速やかに対処している。今後は、その内容を記録に残す必要があると思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の異動があまり無いため、ほとんどの職員は利用者にとって顔馴染みであり、利用者や家族は安心して過ごしている。		


外部 評価 値	自己 評価 値	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員の資質向上については、勤務のやりくりをしながら研修を受講させている。また、日常の作業やサービスについては働きながらのトレーニングにより、新人を育て情報を共有することに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、職員は時と場合に応じた研修を受講でき、情報交換の機会に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の平均年齢が88.8歳、最高年齢が95歳であるため、自分で畑作りをすることができなくなってきているが、畑の作り方や草むしりの仕方を職員に指導してくれる。若い職員は和服の知識や昔ながらの生活習慣などを教えてもらうことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向について本人の言葉で確認できなくても、職員が利用者の視点に立って検討している。今後は職員間で意見を出し合い話し合った内容について、利用者や家族にも確認してもらい、記録に残すことが大切である。	○	職員は日頃の様子から利用者の願いを推し量りながら支援している。「本人の願い」を職員が言葉に表現し、それを確認してもらうことで把握することができると思われる。聞き取った内容は記録し、情報を職員間で共有する必要がある。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の中で一番大切な利用者本人の思いが、入居時のままの記載で変化の確認ができない。利用者の思いや意向を推し量りながら支援することが大切なので、今後はその内容も介護計画に反映させてほしい。職員の気づきを取り入れられるよう、毎月の職員ミーティングの際、意見等を出してもらい介護計画を検討している。	○	介護計画を作成する際に重要となる利用者の思いは、職員が利用者の視点で推し量り本人に確認してもらいながら記録すれば、本人の思いが連動した介護計画を作成することができると思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画終了時や利用者に変化が生じた場合は、職員の気づきや意見を収集し利用者の現状に合わせて、利用者それぞれの介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により主治医を決めている。訪問診療等も取り入れながら、適切な医療を受けられるよう支援している。また、家族の要望により、通院介助も対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りに関する考え方」を作成し、聞き取り等により家族や本人の意思を確認しているが、重度化に伴う意思確認書の作成には至っていない。	○	医療連携体制の整備がなされていることから、利用者又は家族等へ説明し、重度化に伴う意思確認書等により、意向を確認しながら、職員間で対応方針の共有をすることが大切である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの尊厳を大切に丁寧な言葉掛けし、対応している。個人情報利用同意書も個々に取り交わされており適切な取り扱いがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内での役割を強制することはなく、利用者の思いを大切にしながらお手伝いをしてもらう、といった形で行っている。食事、外出、入浴等利用者の希望を取り入れながら支援している。職員は、いつもその人らしさを発揮できる場面作りを心がけている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の作業の中でできるだけ、利用者の力を活かしながら支援している。頂き物の野菜やスーパーで買った食品を使い、一人ひとりの好みに合わせながら食事作りをしている。いつも、利用者の食べたい物を聞きながら、翌日にはメニューに取り入れており、利用者は食事を楽しみにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に3回、午後に実施している。しょうぶ湯やゆず湯、さらに、入浴剤を使用して工夫しながら、一人ひとりの希望や体調に合わせて入浴できるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	料理の下ごしらえ、テーブル拭き、茶碗拭き、洗濯物たたみ等利用者の役割を見つけて支援している。生け花の得意な利用者が手伝いホーム内には、たくさん花が生けられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	週に1～2回近くの駅等に散歩に行ったり、年に数回ホーム全体で花見等遠出している。現在、車椅子無しで散歩ができる利用者がいないため、散歩や遠出の際には、利用者1人に職員1名で対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は鍵を掛けないで対応している。利用者が孤立しないように職員が見守っており、各居室も施錠はされていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年1回実施しているが、地域の協力が得られるような働きかけはされていない。さらに、非常災害時に必要となる食料や備品等も準備されていない。	○	特に夜間の災害発生の初期行動としては職員自身が一人で対応しなければならないことを念頭において訓練してほしい。また、運営推進会議の開催日を訓練の日に充てるなどして委員にも呼びかけ、地域の協力体制の整備に取り組んでほしい。また、災害時の備蓄も準備されるよう望みたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューは職員がカロリーを計算しながら、栄養の偏りやカロリーの過不足等を確認している。さらに、利用者の食事摂取量等を確認しながら、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間である食堂は明るく清潔に保たれている。利用者と職員で作成したちぎり絵、ぬり絵、習字の作品等の作品を飾り、利用者が達成感を感じられるよう工夫している。毎日のホーム内清掃等により気になる臭いは感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、写真やテレビ、タンス、仏壇等、できるだけ利用者の馴染みの物を持ち込んでもらい、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 船引クリニック グループホームすみれ

記入担当者名 佐久間 早代子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。